

第2章 都市づくりの基本方針

第1節 都市づくりの理念

第2節 将来の都市構造

第1節 都市づくりの理念

府中町第4次総合計画では、『商工住のバランスを保ち、次世代へ元気をつなげるひととまち』の構築に向けて、『ひとがきらめき まちが輝く オアシス都市 あきふちゅう』を都市の将来像として掲げています。

府中町都市計画マスタープランでは、府中町第4次総合計画で掲げる都市の将来像の実現のため、第1章で整理した、府中町の現状と都市づくりの課題、時代の潮流などの前提事項を踏まえ、『都市づくりの基本理念』及び『目標人口』を次の通り設定します。

1 都市づくりの基本理念

**『商工住のバランスを保ち、
次世代へ元気をつなげるひととまち』**
～住んでよかった、住んでみたいまちづくり～

府中町がこれまで目指してきた「利便性の高い良好な住宅地」としての性格を基本とし、都市圏全体に貢献する生産や消費の場としての機能の充実も図ることで、人口減少社会の中でも元気を保ち、住民が誇りをもって「住んでよかった」と実感し、他都市に住んでいる人が「住んでみたい」と思う都市づくりを推進します。

2 目標人口

当町は、平成2（1990）年の国勢調査で人口5万人を突破して以来、現在も5万人規模を維持し、平成27（2015）年4月の住民基本台帳では、51,923人となっており、緩やかな増加傾向を維持しています。しかし、昨今、全国的な人口減少社会を迎えており、今後、当町においても人口減少に転じることが予測されます。

このような状況においても、当町の特性を活かしたまちづくりを積極的に展開し、『商工住のバランスを保ち、次世代へ元気をつなげるひととまち』の実現に向け、府中町第4次総合計画では、令和7（2025）年の目標人口を53,000人と設定しており、都市計画マスタープランにおける目標人口についても、府中町第4次総合計画で設定されたとおり、53,000人に設定します。

令和7年

目標人口

53,000人

【人口フレーム】

	平成13（2001）年	平成27（2015）年	令和2（2020）年	令和7（2025）年 （目標）
人口	51,195人	51,923人	52,500人	53,000人
世帯数	20,286世帯	22,332世帯	23,009世帯	23,246世帯

○平成13（2001）年は、住民基本台帳及び外国人登録法に基づき登録された数。

○平成27（2015）年は、住民基本台帳（外国人を含む）に登録された数。

○令和7（2025）年は、府中町第4次総合計画における目標人口。

第2節 将来の都市構造

1 基本的な取り組み姿勢

集約型都市構造の構築

当町は、戦前からの製造業の集積に加え、広島市中心部に近接した立地特性から、高度成長期以降人口が急激に増加し、さらに近年、大規模商業施設の立地等も進み、現在では、複合的な機能を備えたコンパクトで密度の高い市街地を形成しています。一方、全国的な人口減少期を迎え、当町においても長期的には人口減少が予測される中、少子高齢社会を支える都市型社会に対応した都市構造の再構築が求められています。

このため、当町の特徴であるコンパクトな都市構造を将来にわたって維持しつつ、広島市東部地区連続立体交差事業・向洋駅周辺土地地区画整理事業の整備等にあわせて、都市機能の一層の集約化による魅力的な都市拠点の形成や、町内全域から都市拠点へのアクセスを支える公共交通ネットワークの再編・充実を図った『集約型都市構造』を、目指すべき将来の都市構造として設定します。

『集約型都市構造』の実現を図ることで、都市の活力や町民の生活利便性の向上に加え、将来にわたって安心して住み続けることができる安全で環境負荷の小さい持続可能な都市を次世代に継承するとの観点から、その実現に向けて、行政、住民、事業者が相互に連携・協力し、継続的に取り組んでいきます。



2 将来都市構造

(1) 地域の設定

無秩序な市街地拡大防止と自然との調和を図る観点から、町域を次の3つの地域に区分して設定します。

市街地形成地域	すでに市街地を形成している地域で、今後とも商・工・住のバランスが取れた良好な市街地を維持・形成する地域
自然共生地域	緑の保全を図りつつ、既存住宅団地を結ぶ道路ネットワークを構成することで、民間活力も視野に入れた計画的な土地利用を推進し、市街地内では確保することが難しい都市機能を補う計画的な開発などを許容する地域 一帯の山林・緑としての広がりをもつ眺望を保全するという観点と、保安林を適切に保全するという観点から、標高 150mラインを限界とする
山林保全地域	災害防止、自然環境保全や景観の観点から、ふるさとの森として長期的に保全を図っていく地域（標高 150mラインより高い地域）

(2) 拠点の設定

住民の日常生活や、産業活動、余暇活動、地域活動などの中心となる地区を拠点として設定します。

中心拠点地区	広域的な交通結節機能を有し、全住民の利用を想定した公共公益施設（行政・文化・福祉・地域交流など）や、多様な商業、業務、公共サービス施設が集約し、町のシンボリックな役割を担う拠点
向洋駅周辺拠点地区	唯一の鉄道駅としての特徴を活かした交通結節機能の充実と商業機能などの活性化によって、府中町の玄関口にふさわしい良好な都市形成を図る拠点
工業系拠点	工業系施設が既に集積し、生産活動を支える地区 ⇒ 新地及びその周辺
歴史・文化系拠点	歴史・文化を発信していく中心となる地区 ⇒ 本町（府中町歴史民俗資料館周辺）、宮の町
公園	広域的な利用圏域を持つ公園 ⇒ 水分峡森林公園

(3) 都市軸（幹線道路網）の設定

他都市や町内の各拠点をつなぐ都市軸（幹線道路）は、現在の都市計画道路を基本とし、町内幹線道路ネットワークが不十分な丘陵地や町東部の生活利便性の向上や、町全域の交通円滑化の観点から、新規の道路整備や既存の道路の改修により外環状道路の整備を検討します。



▲広島高速道路(県道)府中仁保道路



▲町内シンボル道路(町道)鶴江鹿籠線



▲広域幹線道路(県道)土橋船越線



▲町内幹線道路(町道)大須上岡田線

▼都市軸（幹線道路網）の設定

都市軸（幹線道路網）	設定内容
広域連携都市軸 (広島高速道路)	府中町と他都市・他圏域との連携を図る自動車専用道路
(広域幹線道路)	府中町と他都市との連携を図る主要な幹線道路で、沿道での高次な都市機能の立地誘導を図る都市軸
町内連携都市軸 (町内幹線道路)	広域幹線道路とつなぐことで全町域の円滑な交通の確保を図るとともに、町内の拠点と各地区、地区相互をつなぐ生活道路
(町内シンボル道路)	中心拠点と向洋駅周辺拠点を連絡し、沿道の都市づくりを積極的に誘導する町内の主要な都市軸
(外環状道路)	全町域の円滑な交通を確保するとともに、丘陵地・町東部の生活利便性や安全性の向上、計画的な土地利用の誘導において重要な役割を担う道路

外環状道路に期待される効果について

- 町北東部の丘陵地で暮らす住民のアクセス利便性の飛躍的向上
- バス路線の新設・拡充
- 交通利便性の向上により、暮らしやすい住宅地として存続・発展
- 災害時の避難や、緊急車両の進入の円滑化
- 運動公園や自然系レクリエーションなどの施設が充実した「自然共生地域」へのアクセス利便性の向上による自然との触れ合い機会の増加
- 地区間の交流・連携の活発化による、都市としての活力の維持・発展

《将来都市構造図》

